



通信

認知症
三二講座④

抽象的なことと現実とが
結びつかなくなる

私はコンビニエンスストアの機械や、今流行りのスマートフォンなど、普段慣れない機械の操作になると、はずかしながら使い方がわからない場合がありますが、誰かに教えてもらえば手順通りに使うことができます。

しかし、「理解力や判断力」が低下した認知症の方は、ボタンを押して何かをするというような機械の「見えない仕組み」がわかりません。たとえば金融機関のATMなど、手順を説明しても用途や機能自体を理解できていないため混乱してしまいます。ほかにも、訪問販売でセールスマンの口車にのって、言われるがまま高価な物を契約・購入してしまうこともあります。セールスマンと世間話をしている、途中で商品の説明を早く

中核症状 理解力・判断力の低下

認知症の中核症状の一つ「理解力と判断力が低下」してくると、頭の中で物事を組み立てて、目の前の現実と結びつける能力が低下します。

でされてしまうと、話の一部分しか理解できないことが大きな理由になります。物を購入したという意識はほとんどないでしょう。

一度に二つ以上のことが
処理できない

二つ以上のことが重なると、一度に処理できる情報量が減り、さらに長々と説明すると、ますます状況が判断できません。また、ちよつとした変化に対応できず混乱することが出てきてしまいます。

みなさんも認知症の方と接する中で、「説明しても伝わらない」「頼みごとをしてもらえない」「と」ということはありませんか？その原因の一つとして、伝える側の説明が多すぎる場合があります。認知症の方は、たくさん情報を頭の中で処理できずに一番印象に残っている、ほんの一部しかわかっていないことがあり、

当の本人はすべてを理解していても「わかった」と返事をしてしまうことが多いのです。

考えるスピードが遅くなる

私たちは認知症の方に「説明する時」は、極力ゆつくりとした口調で話をします。それでも、内容を理解してもらえているのはほんの一部分です。ゆつくりと話をすればよいというわけではなく「必要な話は時間をかけて簡潔に伝える」「また「わかりやすい単語に言い換えてみる」など工夫してみると、認知症の方が自分なりに理解できると思います。みなさんも心がけてくださいね。

坂井きらめき 石川陽子

